

琴似中学校区 小中一貫した教育グランドデザイン(令和7年度版)

琴似中学校 琴似小学校 山の手小学校 山の手南小学校

札幌市の「小中一貫した教育」の目的

「自立した札幌人」の実現に向け、義務教育段階において
「知・徳・体の調和のとれた育ち」の一層の充実を図る



全市共通で推進する「二つの柱」

①課題探究的な学習

②発達の段階に応じた継続的な子供理解

札幌市の「小中一貫した教育」推進の四つの視点 ～「人間尊重の教育」を基盤に～

①

②

③

④

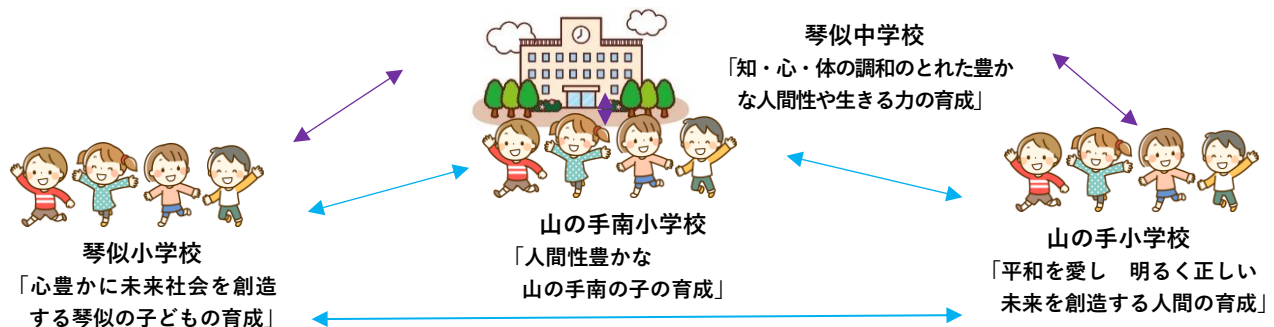
9年間を通した子どもの
学びのつながり
自分にはよいところがある
(自己肯定感を育てる)

子ども理解・生徒指導の
連続性
自分が必要とされていると感
じる(相互承認を生み出す)

教職員の連携・協議
子どものよさや可能性の認識
(人間尊重の意識向上)

家庭や地域との関わり
多様な人々との協働

組織図と学校教育目標



地域の実態・願い

家庭はもちろん、地域の方たちの支援や学校に対する期待は非常に大きい。地域に屯田兵屋があり、地域に根付いた学習への協力もお願いしている。地域愛を強く持っている方が多く、子どもたちの成長を温かく見守ってくださっている。教育に熱心な風土がある。

子どもの実態

基礎学力が高く、学習に意欲的に取り組む子どもが多い。家庭の教育力の高さも伺える。一方、自己肯定感が低い子ども散見され、遅しさにやや欠ける部分もみられる。自己抑制力、自律性を身に付けた子どもが多く、全体的に落ち着いた生活をしている。

琴似中学校区・目指す15歳の子ども像

学びの楽しさを知り 仲良く素直で相手とつながり 心身ともに健やかな人

2つの柱と4つの視点を踏まえた教育目標

目指す教育

知

徳

体

・基本的な学習習慣を身に付けた子どもの育成
・自ら課題を設定し、課題解決へ向け、主体的に取り組む子どもの育成
・他者の意見を受け入れ、自分の考えを表現する力の育成

・他者を思いやり、尊重する心を持った子どもの育成
・他者への感謝の心を持ち、協力し合い、助け合える子どもの育成
・自己肯定感を持ち、自分の良さに気付ける子どもの育成
・地域を大切にし、文化を受け継ごうとする心を身に付けた子どもの育成

・運動に親しみ、心身の健康の保持増進に努める子どもの育成
・食に関する正しい知識をもとに望ましい食習慣を身に付ける子どもの育成
・性に関する正しい知識を身に付け命を尊重し大切に行動する子どもの育成